

平成26年度第2回 福岡市立学校給食運営検討委員会 議事録

1 開催概況

- (1) 日 時：平成26年8月27日（水） 14:00～16:00
- (2) 場 所：福岡市役所11階教育委員会議室
- (3) 出席委員：今井克己委員長，簗田輝副委員長
梅田晴子委員，古賀伸彦委員，藤野二郎委員，
坂田美和子委員，木原千鶴香委員，久光謙治委員，
松下誠委員，落合さゆみ委員，江島美智代委員，
新川香織委員，泊孝子委員，堤晃司委員，
金子佳史委員，角健太郎委員
(以上16名)
- (4) 事務局：2名

2 議事録（要旨）

(1) 議 題：平成27年度福岡市学校給食費について

給食費額改定の必要性について

ア 配布資料に基づいて事務局から説明があった。

- 給食費設定方法の確認
- 食材料の価格動向の説明
- 給食費改定の事務局案として、
 - ・ 27年度より学校給食費の額を改定することが必要
 - ・ 改定額は少なくとも小学校で月額200円、中学校で月額300円の増加
(改定後の、小学校月額は4,100円、中学校月額は4,900円)

イ 事務局の説明に対し、以下のような質問・意見が表明され、事務局が質問に回答した。

(問) 改定サイクルと消費税対応について。

(答) 改定サイクルは特に決まっていない。物資価格の動いた結果を見て、改定することとなっている。

(問) 1年間我慢して28年度から改定というのは考えられないか。

(答) 現実に歳入が不足している状況なので、27年度改定の線で実施したい。

(問) (置換価格の比較で中学校は307円上昇していることから)中学校の300円改定では、食材料費が不足するのではないか。

(答) 確かにご指摘の通り厳しい状況であるが、事務局としては、「少なくとも」300円の改定を、と考えている。

(意見) 物資選定では、設定した価格で選べる物資の種類や提示する業者が減っており、選択の余地がなくなってきている。また、これからさらに物資価格が上がっていく印象がある。短いサイクルで、給食費が上がるというのは、理解を得にくいのではないか。近い将来を見据えて一気に改定する(上げる)のも一つの考え方ではないか。

⇒委員会の意見として「給食費額の改定の必要性がある」ということで異議なし。

給食費額改定幅について

ア 配布資料に基づいて事務局から説明があった。

- 価格改定時の回復例

イ 事務局の説明に対し、以下のような質問・意見が表明され、事務局が質問に回答した。

(意見) 物資選定の際に、価格の面から、現実には外国産を使用することもある。また、今年9月の物資価格については、天候不順により野菜系がかなり上がっており、年間通して平均というのは難しいのが現状。こういった部分も考慮に入れて、許される範囲で(月額で)50円単位の設定もあると考える。

(意見) 現場で中学生の意見を聞くことがあるが、肉の種類などもよく気が付くようで、「最近鶏肉ばかり」等の声が聞こえる。おかず類については子供たちも敏感になっているよう。子供の声を献立に反映させたい気持ちがあり、反映させられる程度の給食費が望ましい。

(意見) 保護者が給食費の仕組みについて不明であると感じる、この辺りはしっかり広報すべき。また一方で未納者も多く、回収の努力もすべき。

(問) 給食費の未納者についてはどうなっているのか。

(答) 公会計となって以後、未納者には市の責任で督促や催告、法的措置を行って回収に努めている。未納分だけ食材料費が圧迫されるという仕組みではなく、一食単価分は確保している。

(意見) 特別支援学校高等部の生徒は、かなりの食事量が必要。給食が楽しみのために学校に来ているという子も特別支援学校には多い。給食費は上げざるを得ないと思う。

(意見) 100円の改定でも「上がった」という印象しかないので、こまめの改定ではなく小学校300~400円、中学校400円でもいいのではないかと。保護者への説明は十分にする必要はあるが、過分でなければ、余裕を見た金額でもよいと考える。

(意見) 今年4月の消費税率改定は食材料に跳ね返ると同時に配送料にも影響が出ている。燃料費等の高騰もあり、業者からも厳しいという声が届いている。

(意見) ぎりぎりの額の改定だと、変化が見えない。子供が家庭に帰って話すときも変化が親に伝わらない。ぎりぎりではなく、例えば果物の回数が増加した、など、見た目が伝わるような形にさせていただいた改定をすべき。食べている子供が一番に感じられ、家庭で話せるように。そうすると保護者も納得感があるのではないかと。

(意見) 今、提示されている資料の給食内容の回復例では、回復の満足度があるかというのが見えないと思う。

(問) 子どもの健康面からも給食が担っている面が大きい。価格面も大事であるが子供の成長期にしっかりしたものを食べないと、問題があるかと考える。今でも十分栄養価が保障されているのか。

(答) 栄養の面では、福岡市で設定している栄養摂取量を満たした内容で提供している。

(意見) 動物性と植物性では吸収率が違うため、可能であれば、栄養の摂取は、吸収率の良い動物性のもののほうが望ましい。中学生は体が完成していく時期でもあり、この時期に鉄分やカルシウムが不足するのは大変困ったことになるので、そこは、牛肉の回数が減れば鉄分が不足するのではないかと、という心配もある。吸収率でいえば（動物性と植物性では鉄分の吸収率に）10倍の差がある。一番大事な時期に正しく補給することが必要。生活の厳しい世帯では給食でしか栄養を摂れていない子供もいる。特別支援学校に勤務していた時に、「給食で栄養を取らせていただいているので助かる」という声もあった。給食として提供する以上は、子供の栄養を吸収まで含めて保証する必要があると考える。

(意見) 次回、納得感のある資料を持って結論としてもいいのでは。3回目で金額を決定することにしていいのではないかと。

⇒ 委員会として、資料の追加提示を求め、第3回の委員会で改定金額を含め委員会の意見を決定することで異議なし。